

自己評価報告書

平成23年 4月20日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520382

研究課題名(和文) ソグド語と古代チュルク語の言語接触に関する包括的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study of the language contact between Sogdian and Old Turkish

研究代表者

吉田 豊 (YOSHIDA YUTAKA)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：30191620

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：言語接触, シルクロード, ソグド語, イラン語, 古代チュルク語, 歴史言語学, 突厥, ウイグル

1. 研究計画の概要

シルクロードの交易民族として有名なソグド人はイラン系の民族であり印欧語の話者であった。彼らは紀元後11世紀以前の中央アジアにおいて、アルタイ系の言語を話す古代のチュルク人(突厥, ウイグルなど)と交流し, その結果としてソグド語および古代チュルク語も変容した。(1) この言語接触の具体的な様相とそれによる言語変化の結果との全貌を解明するとともに, (2) 言語接触に関する言語学的研究一般の中に位置づけることが本研究の計画である。

2. 研究の進捗状況

(1) 言語接触の歴史的な背景の理解。ソグド人と古代チュルク民族との接触がいつ, どこで, どのようなありかたで存在したのかを, 文献や考古学史料をさぐりながら検討し, おおよその枠組みを明らかにした。それによれば, 言語接触はチュルク系の民族が歴史に登場する6世紀頃からモンゴル高原においてはじまり, チュルク系民族の勢力拡大とともに接触地域は拡大し, ソグド語が死語となる11世紀にはほぼ中央アジア全体で接触は起こっていた。その痕跡は紙文書(手紙, 契約文書, 宗教文献)や碑文に残されている。

(2) 資料の収集。言語接触による言語変化を解明するための文字資料の収集と解読につとめてきた。とくに写真が公表されいながら未だに解読されていないマニ教ソグド語文書については, 世界に存在しているものの大半を転写した。この間には中国で新たに発見された新出の資料や, いったんは紛失していたと考えられていた資料の再発見等の幸運にも恵まれた。またマニ教文献を研究す

る過程で, 日本に存在するマニ教絵画を発見することができた。

(3) 言語接触に関する理論的な研究のなかの位置づけ。社会言語学の一分野には言語接触に関する研究分野があり, かなりの研究成果が蓄積されている。その成果と申請者が研究している現象とを比較検討しながら, 接触言語学一般にどのような貢献ができるかを考察して来た。とくに二言語併用者が言語変化に果たす役割を検討し, 10世紀に書かれたチュルク語からの影響の強いソグド語の成立の言語学的な背景を究明した。

3. 現在までの達成度

(2) おおむね順調に進展している。ソグド語と古代チュルク語の言語接触の全体的な枠組みをほぼ明らかにすることができたこと, 言語接触による言語変化を反映する言語資料の収集と解読が順調にすすんでいること, さらに接触の結果ソグド語側で起こった現象をほぼ記述することができたことは大きな成果であった。一方で古代チュルク語側の変化をまだ十分に把握できていない。原因は古代チュルク語の研究者の中にこの方面での研究を行う者がほとんどいないことである。

4. 今後の研究の推進方策

残された1年間には, 古代チュルク語側の変化については, 既に知られていることを網羅的に集め整理し, 今後の研究の枠組みを作ることとし, 共同研究の可能性を模索したい。ソグド語側の変化については, 申請者のこの間の研究成果をまとめるとともに, いろいろな機会を見つけて公表することにしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

(1) 吉田豊「ソグド人と古代チュルク族との関係に関する三つの覚え書き」『京都大学文学部研究紀要』50, 2011, pp. 1-42. (査読無し)

(2) 吉田豊「新出のソグド語資料について- 新米書記の父への手紙から: 西巖寺橋資料の紹介を兼ねて-」『京都大学文学部研究紀要』49, 2010, pp. 1-24. (査読無し)

(3) 吉田豊「寧波のマニ教画 いわゆる「六道図」の解釈をめぐって」『大和文華』119, 2009, pp. 3-15. (査読あり)

(4) Yutaka YOSHIDA, "Die buddhistischen sogdischen Texte in der Berliner Turfansammlung und die Herkunft des buddhistischen sogdischen Wortes für Bodhisattva", *Acta Orientalia Hungarica* 61/3, 2008, pp. 325-358. (査読あり)

(5) Yutaka YOSHIDA, "Viṣa' >"ra's corpse discovered?", *Bulletin of the Asia Institute* 19, 2004[2009], pp. 237-242. (査読あり)

[学会発表] 計 5 件)

(1) Yutaka YOSHIDA, "A new Turco-Sogdian document from the late Prof. Arat's collection", Turfan forum on old languages of the Silk Road, Turfan, China, 2010/10/24.

(2) 吉田豊「旅順博物館所蔵のソグド語文書について」龍谷大学・旅順博物館合同討論会, 京都 2010/3/29.

(3) Yutaka YOSHIDA, "Historical background of the Sevrey Inscription in Mongolia", International conference on the onomastic studies in the Kazakh language area, Astana, Kazakhstan, 2009/12/22.

(4) Yutaka YOSHIDA, "Some other Manichaean paintings from Japan", International Association for Manichaean Studies, Dublin, 2009/9/11.

(5) Yutaka YOSHIDA, "Heroes of the Shahnama in a Turfan Sogdian text", International Conference on Central Asian Studies in Memory of B. Marshak, St. Petersburg, 2008/11/13.

[図書] (計 10 件)

(1) 吉田豊『ソグド人の美術と言語』臨川書店 2011, pp. 1-118.

(2) 吉田豊『新アジア仏教史 05 中央アジア文明・文化の交差点』佼正出版 2010, pp. 165-215, 429-436.

(3) Yutaka YOSHIDA, "Buddhist literature in Sogdian", in: R. E. Emmerick and M. Macuch (eds.), *The literature of Pre-Islamic Iran. Companion volume I to A history of Persian literature*, New York, I. B. Tauris 2009, pp. 288-329.

(4) Yutaka YOSHIDA, "Turco-Sogdian features", in: W. Sundermann, A. Hintze and F. de Blois (eds.), *Exegisti monumenta. Festschrift in honour of N. Sims-Williams*, Wiesbaden, Harrassowitz, 2009, pp. 571-585.

(5) Yutaka YOSHIDA, "Sogdian", in: *The Iranian languages*, London and New York, Routledge, 2009, pp. 279-335.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]